



関 正人 社長

## 「金融の枠を超えたソリューション提供」

JA三井リース九州は、1982年の設立以来、九州の地に根ざし、お客さまや地域社会とともに歩みを進めてきた。2017年には、農林中央金庫と三井物産をバックボーンに持つJA三井リースの100%出資会社となり、19年には九州営業本部との事業統合を経て、グループの一翼を担うエリアカンパニーとして新たなステージへと進化している。

25年度から3カ年の中期経営計画「Sustainable Evolution2028 KYUSHU」を策定した。策定にあたっては長期ビジョンとして10年後のありたい姿を見据えたうえで、3カ年の計画および基本方針を決定している。

「社会・地域・顧客のあらゆる課題解決を通じて持続的成長を実現する」というサブタイトルを設定。九州の発展に貢献し、唯一無二のパートナーとなる企業を目指し、お客さまと共に成長をしていくという方向性に沿って、基本方針を「社会・地域の課題」・「顧客の課題」・「専門領域の拡

大」・「人材力強化」・「経営理念の体現のための企業風土」の五つのテーマを定めた。

課題解決型の提案を行うために、当社単独で完結しないビジネスの増加を踏まえ、JA三井リースグループとの連携、農林中金、三井物産、パートナー企業との連携によりファイナンス領域を超えた取り組みを推進していく。

24年度は森林由来の「Jークレ

ジット付リース」をリリースしたが、今後は「カーボンクレジット付リース」の拡大やEV・FCV、蓄電設備の導入支援など、循環型社会の実現に向けた取り組みを強化する方針で、離島や人口減少地域での交通・医療・エネルギーなどのインフラ支援、農林水産業の生産基盤強化支援といった社会・地域・お客さまの抱える課題解決に向け取り組んでいる。

専門領域の拡大として、共同出資や事業連携による新たなビジネスの創出にも挑戦しており、不動産ビジネスの進化や、アセットバリュー・サプライチェーンに着目した独自のビジネスモデルの構築、また、お客さまのトップライン向上に向けた専門領域の深化にも取り組んでいる。

同社は「グループの総合力と社員の自由な発想を活かした課題解決営業や共同事業による新たなビジネス創出といった金融の枠を超えたソリューションを通じて、九州の持続的な発展に貢献していきたい」としている。



Sustainable  
Evolution  
2028  
KYUSHU

社会・地域・顧客のあらゆる課題解決を通じて  
持続的成長を実現する

